

令和 6 年度病院事業会計決算の概要

医療部 医療政策課

令和6年度病院事業会計決算の概要

1 収益的収支（営業活動などに伴う収支）（税抜）

当年度経常損益

区 分	経 常 収 益	経 常 費 用	差 引
弥栄病院	36億3,000万8千円	41億9,679万5千円	△5億6,678万7千円
	前年度 38億2,335万9千円	前年度 40億9,549万8千円	前年度 △2億7,213万9千円
久美浜病院	30億3,677万1千円	32億823万5千円	△1億7,146万4千円
	前年度 31億89万5千円	前年度 30億9,873万5千円	前年度 216万円
病院事業	66億6,677万9千円	74億503万円	△7億3,825万1千円
	前年度 69億2,425万4千円	前年度 71億9,423万3千円	前年度 △2億6,997万9千円

当年度純損益

区 分	総 収 益	総 費 用	差 引
弥栄病院	36億4,208万3千円	41億9,799万5千円	△5億5,591万2千円
	前年度 38億3,978万6千円	前年度 41億1,116万8千円	前年度 △2億7,138万2千円
久美浜病院	30億7,831万1千円	32億1,012万9千円	△1億3,181万8千円
	前年度 31億4,396万4千円	前年度 31億397万2千円	前年度 3,999万2千円
病院事業	67億2,039万4千円	74億812万3千円	△6億8,773万円
	前年度 69億8,375万円	前年度 72億1,514万円	前年度 △2億3,139万円

2 資本的収支（建設改良事業など投資活動に伴う収支）（税込）

区 分	資本的収入	資本的支出	差 引
弥栄病院	7億4,429万1千円	8億8,479万7千円	△1億4,050万6千円
	前年度 3億7,379万8千円	前年度 5億260万5千円	前年度 △1億2,880万7千円
久美浜病院	3億6,578万1千円	4億3,208万9千円	△6,630万8千円
	前年度 2億8,739万6千円	前年度 3億3,192万8千円	前年度 △4,453万2千円
病院事業	11億1,007万2千円	13億1,688万6千円	△2億681万4千円
	前年度 6億6,119万4千円	前年度 8億3,453万3千円	前年度 △1億7,333万9千円

※差引収支不足額は、損益勘定留保資金、一時借入金で補てん

【建設改良費】 7億6,109万1千円を投資

弥栄病院（建物設備整備、医療機器等購入、車両購入、リース債務支払）	久美浜病院（建物設備整備、医療機器等購入）
5億4,380万6千円	2億1,728万5千円

【主な財源】 7億5,767万2千円を充当

企業債	6億8,630万円	府・国保会計等補助金	7,137万2千円
-----	-----------	------------	-----------

3 患者数の状況

区 分	入院延患者数		外来延患者数	訪問看護利用者	通所リハビリ利用者
	一般病床	療養病床			
弥栄病院	39,108人	39,108人	82,999人	12,245人	—
	前年度比 △2,516人		前年度比 △2,571人	前年度比 +136人	
久美浜病院	51,434人	31,916人	81,605人	8,362人	3,609人
	前年度比 +542人		前年度比 +875人	前年度比 △560人	前年度比 +156人
病院事業	90,542人	71,024人	164,604人	20,607人	3,609人
	前年度比 △1,974人		前年度比 △1,696人	前年度比 △424人	前年度比 +156人

令和6年度 弥栄病院事業会計決算の概要

1 概況

○令和6年度は、地域包括ケアシステムの構築に向け、昨年度に引き続き丹後町及び弥栄町内の診療所や福祉施設を対象とした連携会議を主催し、在宅療養や入退院支援などの更なる連携強化に取り組み、経営面では、病院経営強化プランの目標達成に向け、部署ごとに現状や課題を把握し目標を立て、目標と現状の差を埋めるアクションプランを策定し経営改善に向けて取り組んだ。地域包括ケア病床の増床を目指したが看護師不足等により実現が困難であったため、入院収益の増収を図ることを目的に入院基本料施設基準を見直す等、運営・経営改善に努めつつ、医業収益の増加を目指しながら地域医療の確保にも努め、持続可能な医療提供体制の構築に向けて取り組んだ。

○外来は、救急受入れ患者の減少等により外来患者数は減少したが診療単価増により外来診療収入は増加し、入院については、常勤の内科医師の減員などにより患者数・診療収入とも減少した。処遇改善による人件費の上昇、物価や光熱水費、外部委託費の高騰による影響に加え、コロナ病床確保補助金制度の廃止による補助金の減少、看護師不足等により地域包括ケア病床の増床が実現しなかったことや、救急患者の減少等に伴う入院患者数の大幅減少等により事業収益が大きく減少し純損益は赤字となった。

2 医療提供体制の状況

【常勤医師】

常勤医	令和6年4月1日	令和7年3月31日	差 引	備 考
内科	4人	5人	+1人	令和6年5月1日1人採用
外科	2人	1人	▲1人	令和6年4月1日1人採用、令和7年3月20日1人退職
産婦人科	4人	3人	▲1人	令和6年10月31日1人退職
小児科	1人	1人	—	
眼科	1人	1人	—	
泌尿器科	1人	1人	—	
総合診療科	1人	1人	—	
計	14人	13人	▲1人	

○医師招聘に向け、医師確保の努力を続ける中、令和6年4月に外科医師1名、5月に内科医師1名を採用したが、産婦人科医師1名、外科医師1名が年度内に退職した。

【研修医の受入れ状況】

派遣元病院	令和5年度	令和6年度	差引	備 考
京都第一赤十字病院	1人	4人	+3人	1人1ヶ月、延べ4ヶ月
京都第二赤十字病院	5人	5人	—	1人2ヶ月、延べ10ヶ月
神戸市立医療センター中央市民病院	4人	5人	+1人	1人1ヶ月、延べ5ヶ月
京都府立医科大学附属北部医療センター	1人	0人	▲1人	
京都府立医科大学附属病院	1人	1人	—	1人1ヶ月、延べ1ヶ月
宇治徳洲会病院（専門医研修）	4人	4人	—	1人3ヶ月、延べ12ヶ月
計	16人	19人	+3人	

○関係機関からの非常勤医師派遣、研修医や専門医の積極的な受け入れに努め、主に外来の患者需要に応えることができた。

【職員の状況】

職 種	令和6年4月1日		令和7年3月31日		差 引		備 考
	会計年度任用職員以外	会計年度任用職員	会計年度任用職員以外	会計年度任用職員	会計年度任用職員以外	会計年度任用職員	
医師	14人	4人	13人	3人	▲1人	▲1人	
助産師	12人	2人	12人	2人	—	—	
看護師・准看護師	118人	24人	113人	27人	▲5人	+3人	
看護助手	—	13人	—	14人	—	+1人	
薬剤師	6人	3人	6人	3人	—	—	
薬局補助員	—	3人	—	3人	—	—	
技術部職員	48人	2人	46人	2人	▲2人	—	
栄養部職員	2人	—	2人	1人	—	+1人	
事務部職員	11人	34人	11人	34人	—	—	
計	211人	85人	203人	89人	▲8人	+4人	

○令和6年4月1日付採用：医師1人、看護師7人、理学療法士1人、作業療法士1人、社会福祉士1人、事務職員1人
 年度内退職：医師3人、看護師5人、臨床検査技師1人、臨床工学技士1人、事務職員1人
 年度末退職：看護師12人、准看護師2人、管理栄養士1人、リハビリ補助1人

3 地域包括ケアシステムの推進

○野間診療所や福祉施設への医師派遣のほか、訪問診療医師体制5人を維持とする等、在宅医療センターを核とする地域包括ケアを展開し、また2つの訪問看護ステーションと訪問リハビリテーションセンターにより、訪問看護、訪問リハビリ等の年々増加する需要に対応した。

4 地域活動・病院理解のための取組

○院内感染に配慮し、院内でのクリスマスコンサートなどの行事を中止したが、病院周辺清掃、小学生の書道展示、写真掲示等院内ボランティアの受け入れを行った。

○オープンホスピタルについては、感染対策に配慮した上で開催し、将来医療職を目指す丹後圏内の高校生を対象に、医師、看護師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学療法士など、様々な医療現場で働く職種・職場を紹介し、27人の生徒に参加いただいた。高校生対象のふれあい看護体験では5校から10人が参加し、中学生の職場体験学習では4校から18人の生徒を受け入れた。

○看護の仕事や救急救命講習会など、医療スタッフが市内の小中学校や高等学校等に出向き、出前講座を実施した。(R6:22講座 延べ約1060人、R5:21講座 延べ約950人)

5 建設改良等の状況

○B棟自動消火装置設置工事、B棟OP室空調機等改修工事実施設計、医師・看護師宿舍受水槽ポンプユニット改修工事(総額1億725万3千円)

○電子カルテシステム、移動型X線透視診断装置、器具除染用洗浄装置、ベットパンウォッシャー、産婦人科診察台、介護福祉業務管理システム、献立作成システム等を購入(総額4億3,265万5千円)

○公用車、訪問リハビリ用車両購入(209万円)

○リース債務支払い(180万8千円)

6 経営効率化への取組

○経営コンサルタントによる第三者評価の実施、各職場の目標設定やコスト意識の徹底、薬剤メーカーやSPD委託業者等への価格交渉の徹底 ⇒ 医療機器・診療材料等購入に係る効果額:約6,025万円

○診療報酬請求の施設基準経過措置の新規届出及び更新。

7 未収金の状況

○早期の電話連絡、文書督促や催告の徹底

・令和7年3月末窓口未収金 3,256万4千円（前年度比▲297万2千円、8.4%減）

8 総括

○入院延患者数 39,108人（前年度比2,516人減）入院収益16億9,200万5千円（前年度比▲1億5,251万5千円、8.3%減）

外来延患者数 82,999人（前年度比2,571人減）外来収益 8億439万円（前年度比+3,063万6千円、4.0%増）

訪問看護件数 12,245件（前年度比136件増）訪問看護収益 1億1,178万7千円（前年度比+141万2千円、1.3%増）

○医業外収益のうちコロナ関連補助金：0千円（対前年▲1億5,794万1千円）

○経常収支：▲5億6,678万7千円（前年度 ▲2億7,213万9千円）

○純損益：▲5億5,591万2千円（前年度 ▲2億7,138万2千円）

【原因と分析】

○外来患者数は減少したが、1人1日当たりの診療単価増により外来収益は増加した。しかし常勤の内科医師の減員等により入院患者数が減少し入院収益が大幅に減少したことに加え、コロナ病床確保補助金制度等の廃止に伴い補助金が減額したこと、また地域包括ケア病床の増床が実現しなかったこと等により、経常収益は前年度より約1.9億円の減収となった。

○一方で事業費用については、両病院による診療材料の共同購入や薬剤メーカー及びSPD委託業者等への価格交渉等により材料費が減少したが、職員の処遇改善による給与費の増加、光熱水費や給食業務等の外部委託費の高騰により、前年度との比較では経常経費が約1億円増加した。事業収益が減少したことに加え事業費用が増加したことにより、純損益は大きな赤字となった。

9 経営指標の推移

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収支比率	94.4%	100.1%	100.8%	93.4%	86.5%
修正医業収支比率	82.8%	80.7%	77.6%	74.4%	69.4%
病床利用率	70.2%	66.6%	67.7%	70.2%	67.8%
職員給与費比率	61.0%	61.9%	69.9%	76.0%	81.0%
有形固定資産減価償却率	41.6%	45.2%	48.2%	50.7%	50.7%
器械備品減価償却率	72.9%	75.7%	77.6%	77.2%	70.9%

- 経営の健全化を示す経常収支比率は86.5%で、前年度比6.9ポイント減、健全経営の水準とされる100%を大きく下回った。
- 医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は69.4%で、前年度比5.0ポイント減となった。
- 償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は、病院改築整備により50.7%と低い一方、医療機械備品の減価償却率を示す機械備品減価償却率は70.9%で、前年度比6.3ポイント減となった。

令和6年度 久美浜病院事業会計決算の概要

1 概況

○「病院のベッドは地域の資源である」という運営方針のもと、高齢者が「最期まで口から食べる」「最期までお風呂に入る」を保証できる地域医療を引き続き実践し、住民一人ひとりに“寄り添いささえきる”地域づくりに取り組むとともに、引き続き小児医療の充実を図り、口腔疾患予防、訪問看護の拡充などに取り組み、市民の命と安心・安全を守る公立病院としての使命を果たすため、病院長を先頭に職員一丸となって奮闘しました。

しかしながら、多くの地方病院と同様に医療需要に見合う医師確保や体制確保が実現せず、加えて昨今の物価、人件費等の高騰と改定された診療報酬では十分な財源が確保できないこと等から、経営面では厳しい状況の令和6年度となっています。

○入院では、令和5年度より体制強化した地域医療連携室が県境を越えて隣接する但馬地域の病院等との関係を密にすることにより、当該地域からの患者の受入れによって入院患者数、入院収益ともに増加しました。外来では、患者数は増加したものの、コロナ関連検査等の減少、診療報酬の改定により外来収益は前年度より減少しました。事業費用の増加により経常収支、純損益ともに赤字となりました。

2 医療提供体制の確保

【常勤医師】

常勤医	令和6年4月1日	令和7年3月31日	差 引	備 考
内科	4人	4人	—	
外科	3人	3人	—	
整形外科	1人	1人	—	
小児科	2人	2人	—	
麻酔科	1人	1人	—	
眼科	1人	1人	—	
泌尿器科	1人	1人	—	
歯科口腔外科	4人	4人	—	
計	17人	17人	—	

○令和6年度は眼科医師1人を採用したが、内科医師1人及び外科医師1人の退職に伴い医科13人と歯科4人の医師17人体制でスタートとなった。医師招聘に向け、関係機関等への要請活動や依頼、情報収集等に努めた。

【研修医の受入れ状況】

派遣元病院	令和5年度	令和6年度	差引	備 考
京都第二赤十字病院	9人	8人	▲1人	8人2ヶ月、延べ16ヶ月
京都府立医科大学	0人	1人	+1人	1人1ヶ月
京都第二赤十字病院（専門医研修）	1人	1人	－	1人8ヶ月
洛和会音羽病院（専門医研修）	3人	3人	－	1人8ヶ月・1ヶ月・3ヶ月 延べ12ヶ月
洛和会丸太町病院（専門医研修）	2人	0人	▲2人	
岡本記念病院（専門医研修）	0人	1人	+1人	1人12ヶ月、延べ12か月
計	15人	14人	－	

○関係機関からの非常勤医師派遣、研修医や専門医の積極的な研修受け入れにより医療提供体制の確保に努めた。

【職員の状況】

職 種	令和6年4月1日		令和7年3月31日		差 引		備 考
	会計年度任用職員以外	会計年度任用職員	会計年度任用職員以外	会計年度任用職員	会計年度任用職員以外	会計年度任用職員	
医師	17人	2人	17人	4人	－	2人	
看護師・准看護師	96人	31人	96人	34人	－	3人	
介護福祉士・看護助手		37人		39人	－	2人	
薬剤師	4人	4人	4人	4人	－	－	
薬局補助員		2人		2人	－	－	
技術部職員	21人	5人	21人	4人	－	▲1人	
栄養部職員	1人	19人	1人	17人	－	▲2人	
事務部職員	8人	39人	8人	41人	－	2人	
計	147人	139人	147人	145人	－	6人	

- 令和6年4月1日付採用：看護師2人
- 年度内中途採用：看護師1人
- 年度内退職：看護師1人
- 年度末退職：内科医師1名、整形外科医師1名、看護師9人（うち短期再任用職員4人）

3 地域包括ケアシステムの推進

- 佐濃診療所や福祉施設への医師派遣
- 関係団体との地域ケア会議の定期開催（毎月、12回）による情報共有
 - ※地域医療連携室を通じた医療・介護・福祉相談等対応 16,849件（前年度比1,564件増）
 - ※豊岡病院をはじめとする兵庫県北部からの患者受入れ 延べ5,193人（前年度比4,171人減）

4 地域活動・病院理解のための取組

- コロナ等感染症の感染防止を重視し、久美浜病院まつりを中止した。
- キッズドクター・キッズナース、オープンホスピタル等、将来の医療の担い手育成のための取組を実施した。
- 環境美化等延べ120人のボランティアを受入れた。
- 感染症対策に係る講座や保育所・認定こども園歯科教室のほか、久美浜病院の医療を広くPRする出前講座を実施した。（20講座延べ534人、R5は19講座延べ537人参加）

5 建設改良等の状況

- 2号館スプリンクラー設備設置工事（1億2万1千円）※工事監理業務含む
- 全身用X線CT装置、ジェットウォッシャー超音波洗浄装置、口腔内スキャナー、高周波熱灼電源装置等（1億1,726万4千円）

6 経営効率化への取組

- 経営コンサルによる第三者評価の実施、各職場の目標設定やコスト意識の徹底、薬剤メーカーやSPD委託業者等への価格交渉の徹底 ⇒ 診療材料等（薬剤除く）購入に係る効果額：282万円
- 診療報酬請求の精度管理の徹底、診療報酬単価の増加対策として施設基準を新規に届出（14基準）したほか、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律による指定医療機関の指定を受けるとともに、救急病院の認定を更新した。

7 未収金の状況

- 弁護士法人への回収業務委託の継続、窓口での催促や支払相談、電話督促等の徹底
 - ・令和7年3月末窓口未収金 1,889万3千円（前年度比174万円減、8.4%減）

8 総括

- 入院延患者数 51,434人（前年度比542人増）入院収益 15億6,406万8千円（前年度比5,043万8千円、3.3%増）
- 外来患者数 81,605人（前年度比875人増）外来収益 6億9,748万円（前年度比▲6,215万5千円、▲8.2%減）
- 訪問看護件数 8,362件（前年度比560件減）訪問看護収益 8,242万5千円（前年度比 ▲622万6千円、▲7.0%減）
- 通所リハビリテーション 3,609人（前年度比156人増）通所リハビリ収益 3,913万3千円（前年度比 269万円、7.4%増）
- 経常収支： ▲1億7,146万4千円（前年度 216万円）
- 純損益： ▲1億3,181万8千円（前年度 3,999万2千円）

【原因と分析】

- 入院収益では、令和5年度より地域医療連携室の体制を強化しており、県境を越えて隣接する但馬地域の病院等と連携を密にし、入院患者の受入れ等を積極的に行った結果、一般病床の患者数の増加（前年度比0.1%増）及び療養病床の患者数の増加（前年度比2.2%増）により、入院収益は増加した。
- 外来収益では、患者数は増加（前年度比1.1%増）したものの、コロナ関連の検査等の減少及びコ診療報酬の改定により外来収益は前年度より減少した。
- 訪問看護は、訪問回数が減少したことにより診療収益は昨年度比較し、622万6千円減少した。また、通所リハビリテーションは新型コロナウイルス感染症等による利用控えの影響から減少していた利用者が回復し、前年度と比較し156人増加した。
- 入院患者、外来患者共に増加したが、昨今の物価、人件費等の高騰と改定された診療報酬では十分な財源が確保できないこと等から、事業費用が増加し経常収支及び純損益ともに赤字となった。

9 経営指標の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
経常収支比率	98.5%	100.6%	100.7%	100.1%	94.7%
修正医業収支比率	80.4%	84.5%	83.4%	82.7%	79.1%
病床利用率	74.7%	79.6%	72.3%	81.8%	82.9%
職員給与費比率	76.3%	71.9%	72.4%	71.5%	75.7%
有形固定資産減価償却率	74.9%	76.1%	74.6%	76.3%	76.2%
機器備品減価償却率	79.2%	79.1%	70.5%	72.7%	73.4%

- 経営の健全化を示す経常収支比率は、94.7%で、前年度比 5.4 ポイント減少し、健全経営の水準とされる 100%を下回った。
- 医業費用に対する医業収益の割合を示す修正医業収支比率は 79.1%で、前年度比 3.6 ポイント減少となった。
- 償却対象資産の減価償却の状況を示す有形固定資産減価償却率は、前年比 0.1 ポイント減の 76.2%となっており、そのうち医療機械備品の減価償却率を示す機械備品減価償却率は前年比 0.7 ポイント増の 73.4%となった。